

イベント・集客ゾーン

機能	サービス
ホール（629席） 衆屋、会議室、集会室、音楽室、 レクリエーション室、実習室等	・ 青少年の自主活動の場の提供 ・ 研修会、講習会等
課題	
・ 旧耐震基準で安全性に問題があり、建築後50年以上が経過し老朽化対策が必要。 ・ ホールの稼働率が低く、利用者からは規模が過大等の理由で使い勝手が悪いとの意見がある。 ・ 調理設備や畳を有し、他の用途での使用が困難な部屋の利用が少ない。	

中央公園内の公共施設の集約化等に係る施設ごとの方向性

ゾーニング	施設名	集約化等の方向性		
		機能・在り方の見直しについて	最適な配置等について	跡地活用について
文化芸術ゾーン	中央図書館	・図書館の本来機能の向上を図るため、より快適に読書できるような閲覧スペースや飲み物を飲みながらリラックスして読書できるスペース等を確保し、幅広い世代がより本に親しめる空間づくりを目指す。 ・また、「平和文化」の情報拠点として、広島市民はもとより、広島を訪れる多様な人々が平和への思いを共有でき、本市の歴史、文化、産業等の「広島らしさ」を学習できるよう「広島を知る」エリアを設置し、広島の魅力を県外、国外からの来訪者等へも発信する場とすることを旨とする。	・中央図書館は、本市全体の図書館資料の収集・整理等の総合的な管理を担う中枢図書館であり、市民サービスを確保する観点から工事期間中も閉鎖すべきではなく、現在地での建替は仮施設設置の経費等も勘案すれば現実的ではない。また、中央公園内には現時点で移転先として適地がないため、中央公園外に移転する。 ・移転先は、交通結節点として市民だけでなく広島広域都市圏や県外・国外からの利用者が見込め、「楕円形の都心づくり」の「東の核」のまちづくりに資することができる広島駅周辺地区とする。 ・具体的には、広島駅からのアクセス性など、別紙3に示す移転先の条件等を総合的に勘案し検討した結果、エールエールA館内へ移転することとし、今後具体化に向けた詳細な検討を進める。 ・移転にあたっては、左記の機能等を効果的に発揮するために、こども図書館及び映像文化ライブラリーとの集約化を図る。	・文化芸術施設の整備を検討する。
	映像文化ライブラリー	・国内外からの来訪者等を含む幅広い世代が、平和をテーマとした作品や広島ゆかりの作品等に触れることができるようアーカイブ機能を保持し、「平和文化」の情報発信力の強化を目指す。 ・映画館や映画サークル等と連携し、機をとらえて平和をテーマとした作品等の上映会を行うなど、官民連携により、広島全体の映像文化の向上を目指す。	・ライブラリー機能という点で中央図書館と同質性を有し、また「平和文化」の発信という機能を有している側面もあることから、中央図書館との集約化を図る。	・文化芸術施設の整備を検討する。
こどもゾーン	こども図書館	・こどもが本により親しみやすくなる環境を整備する観点から、例えば、読み聞かせやおしゃべりをしながら読書ができるスペースを整備するなど、親子で本を楽しむことができる空間づくりを目指す。	・ライブラリー機能という点で中央図書館と同質性を有し、家族で利用する場合の利便性等を考慮し、中央図書館との集約化を図る。	—
	こども文化科学館	・次世代を担う若い世代が、科学の原理から応用技術、さらには最先端の技術を楽しみながら学び、科学に関する興味・関心を高めることができる施設を目指し、施設内容の全面的なリニューアルを図る。 ・教育機関や企業等との連携を強化し、例えば、地元ものづくり企業等による体験展示ブースの設置など、参加体験型の展示やイベントの充実を図り、質の高い学習機会を提供する。 ・集約・複合化する青少年センターとの連携により、例えば、音楽・ダンス等のこども向け体験講座の開催など、こどもと青少年との多様な交流機会の拡充を図る。	・基本方針に示された「こどもゾーン」の中核施設として、現在地において、耐震及び長寿命化改修を行う。 ・ホール等については、青少年センターとの共用化を図る。	—

ゾーニング	施設名	集約化等の方向性		
		機能・在り方の見直しについて	最適な配置等について	跡地活用について
	ファミリープール	- 施設の老朽化等に加え、来場者用の駐車場不足、稼働期間の制約（夏季のみの利用）に伴う非効率性などの課題を解消する観点から、他のプールとの役割分担の整理や民間活力の導入の可能性を含め、抜本的な見直しを検討する。 - 検討に際しては、親子連れで四季を通じて様々な外遊びを安心して楽しめる環境づくり、という視点にも十分留意する。	抜本的な見直しと併せて、中央公園外への移転や施設の廃止等を検討する。	親子連れで様々なアクティビティが楽しめる空間の整備を検討する。
イベント・集客ゾーン	青少年センター	- 青少年の広域的・自主的な文化・芸術等活動の拠点としての機能を維持し、稼働率が低い時間帯の幅広い年齢層の市民による利活用という観点から、諸室のあり方を検討する。 - 集約・複合化することも文化科学館との連携により、例えば、音楽・ダンス等のこども向け体験講座の開催など、こどもと青少年との多様な交流機会の拡充を図る。	こども図書館の移転後の空間を活用することを前提とし、こども文化科学館のホール等について共用化を図る。	水辺空間と一体となった空間整備を検討する。
スポーツ・レクリエーションゾーン	渝華園	中央公園内のにぎわい創出に寄与できるよう、市民が気軽に立ち寄れるようなオープンかつ使いやすい空間づくりを目指す。	サッカースタジアムの建設に対応し、文化芸術ゾーンの充実を図るため、中央図書館北側に移転・整備する。	サッカースタジアム等整備事業用地にする。

中央図書館等の移転先の選定について

1 移転先の主な条件

	視 点	考え方	具体的な条件
①	アクセス性	広島駅改札から短時間で来場できる。	改札から徒歩約3分（半径約240m）の範囲内にあること（右図のとおり）
		雨に濡れることなく、バリアフリー化された経路を通り、誰でも安全で快適に来場できる。	広島駅とペDESTリアンデッキで接続されること
②	所要スペース	中央図書館及び映像文化ライブラリー、こども図書館を集約し、快適な利用スペース等を確保できる。	約1万㎡（1フロア当たり約2～3,000㎡）の空きスペースが確保できること
③	建築物の安全性	大幅な補強等をせずに安全に使用できる。	耐震基準を満たしていること
④	官民連携	民間施設との連携による情報発信の強化やにぎわいの創出が期待できる。	同一施設内に市民等が様々な目的で来場する施設等であること
⑤	他事業との相乗効果	広島駅南口広場再整備との相乗効果が最大限発揮されることが期待できる。	早期（目標令和7年度）の移転・開館が見込めること

J R広島駅周辺地形図



出典：国土地理院地図電子国土 WEB（一部を加工して作成）

2 広島駅周辺地区の民間施設の状況確認等

- (1) 上記条件①のアクセス性を考慮し、徒歩約3分の範囲内にある既存ストックの活用を検討した。
- (2) 上記条件②～⑤の条件について、徒歩約3分の範囲内にあり、移転先となり得る民間施設を対象に調査・確認した。
- (3) 令和3年9月13日付けで広島駅南口開発㈱からエールエール A 館内への中央図書館等の移転について検討してもらいたい旨の要望書を受理した。

3 中央図書館等の移転先の選定

上記の状況確認等により広島駅周辺地区の民間施設の現状等を把握し、各施設の条件などを総合的に勘案して検討した結果、エールエール A 館が最も条件に適合していることから、中央図書館等の移転先として選定することとした。

他都市図書館の事例

あかし市民図書館（兵庫県明石市）



開館年月	平成 29 年 1 月
立地	JR 明石駅前（駅から徒歩約 2 分） ※図書館までの通路に屋根あり
設置方法	駅前複合ビル 4 階への移転
延床面積	4,105 ㎡
蔵書数	約 45 万冊
来館者数	約 91 万人（令和元年度） ※旧図書館の来館者数の約 2.8 倍
特徴	・児童書エリアと一般書エリアの間に交流エリアを設けることで、子どもの声が一般書エリアまで届きにくいよう工夫 ・同ビル内の他施設との連携（こども健康センター） など
移転による効果	・駅前にあることで、本のまちとしての発信効果が高く、これまで図書館を利用したことがない人の読書推進につながっている。 ・駅周辺の回遊性を高めるための「にぎわいづくり」の施設となっている。

土浦市立図書館（茨城県土浦市）



開館年月	平成 29 年 11 月
立地	J R 土浦駅東口前（駅から徒歩約 1 分） ※屋根付きペデストリアンデッキあり
設置方法	駅前複合ビル 2～4 階への移転
延床面積	5,118 ㎡
蔵書数	約 45 万冊
来館者数	約 57 万人（平成 30 年度） ※旧図書館の来館者数の約 2.8 倍
特徴	・飲食可能なスペースやデザイン等を工夫したキッズコーナー ・自動化書庫、自動仕分け返却機、自習室の予約システム等の I T 化 など
移転による効果	・高校生の自習・学習での利用が増加し（移転前に比べ、高校生の貸出冊数が 6 倍）、また、駅前の通行者数も増加（平日 1.1 倍、休日 1.5 倍）している。

和歌山市民図書館（和歌山県和歌山市）



開館年月	令和元年 12 月（一部開館）、令和 2 年 6 月（全部開館）
立地	南海和歌山市駅隣接（駅から徒歩約 1 分）
設置方法	駅前へ新築移転（隣接する商業ビルと 2 階通路で直結）
延床面積	7,597 ㎡
蔵書数	約 48 万冊
来館者数	約 67 万人（令和 2 年度） ※旧図書館の来館者数の約 3.9 倍
特徴	・芝生広場や、プレイスペース、もぐもぐスペースなど、親子で楽しめる工夫 ・郷土作家、移民資料室など郷土に根差した展示 ・カフェ、物産販売、観光案内 など
移転による効果	・高校生、大学生など電車通学する学生の利用が増加している。 ・滞在型の図書館として利用されている。 ・駅前周辺市街地の賑わいが創出されている。

三原市立中央図書館（広島県三原市）



開館年月	令和 2 年 7 月
立地	JR 三原駅前（駅から徒歩約 3 分）
設置方法	駅前に単館新築（同一区画内に商業施設、ホテル、広場等有）
延床面積	3,170 ㎡
蔵書数	約 25 万冊
来館者数	令和 2 年度（R2.7.23～）約 24 万人、令和 3 年度（～R3.9.30）約 11 万人 ※旧図書館約 7 万人（平成 31 年度、別カウント方法）
特徴	・様々なテーブルとイスを配置し、くつろぎながら読書を楽しめる工夫 ・緑色のカーペットが広場の芝生を連想させるおなはしのへや など
移転による効果	・アクセスの良い駅前に立地するため、旧図書館を利用していなかった市民等も利用し、利用者数が大きく増加している。 ・図書館単独でのイベント開催とともに、広場や民間施設、周辺商店街など連携したイベント開催などにより、中心市街地のにぎわい創出に効果がある。